

7月の第4日曜日は
親子の日

親子の日普及推進委員会
<http://www.oyako.org>



7月の第4日曜日は

親子の日

2010年活動報告

親子の日普及推進委員会



年に1度、親と子がともに向かい合う日があったっていい。
その日を通じて、すべての親子の絆が強められたら素晴らしい。
そんな願いを込めて、7月第4日曜日を「親子の日」にしたいと私たちは考えました。

2010年は、7月25日が「親子の日」。

今年も、親と子の距離がぐっと縮まる数々のイベントを開催し、
沢山の皆さんからの共感をいただきました。



5月第2日曜日は、母の日。
6月第3日曜日は、父の日。
7月第4日曜日は、
親子の日。

28年間にわたって「親子」の撮影をライフワークにしてきた
米国人写真家ブルース・オズボーンが中心となって呼びかける

「親子の日」は、今年で8年目を迎えました。

“「親子の日」には写真を撮ろう。

親子で向き合いコミュニケーションする時間を大切にしよう”と

呼びかけをはじめたのが2003年。

2004年には、そのメッセージに賛同する人たちによって

「親子の日普及推進委員会」が発足し、

以後、さまざまな活動を展開しています。

今年も沢山の皆様の力をお借りして、実りある活動を実現出来ました。

ここに報告書としてまとめ一年を振り返り、

今後の活動の指針としていきたいと思っています。

今後とも、「親子の日」を応援していただきますようお願いいたします。

親子の日普及推進委員会

<http://www.oyako.org>

◆「親子の日」の普及推進にあたって、2010年度は以下の企業団体のご協力をいただいています。

●特別協賛：オリンパス株式会社／株式会社そごう・西武

●協賛：ドクタープログラム株式会社

●特別協力：毎日新聞社

●協力：オリンパスイメージング株式会社／エプソン販売株式会社
株式会社円谷プロダクション／株式会社 OVERHEAT MUSIC／ぐるなび

●後援：J-WAVE

●Special thanks：デジタルハリウッド／愛知県児童総合センター
安田音楽事務所／アチーブメント出版株式会社／米原市／SPACEPORT Inc.

東京 YMCA“liby”／日本写真館協会

PFF(ぴあフィルムフェスティバル)／株式会社浪漫堂

BeGood Cafe／NUTS／BBスタジオ／All American Supply,Inc.



◆ オフィシャル・ウェブサイト

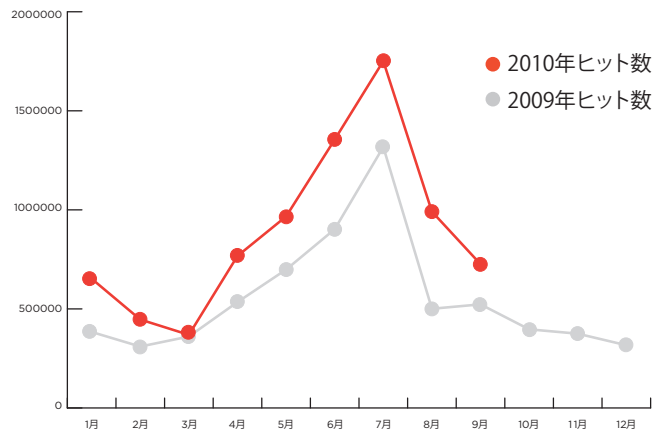
<http://www.oyako.org>

日・英バイリンガルの「親子の日」情報発信プラットフォームです。「スーパーフォトセッション」で撮影した写真掲載、「写真コンテスト」と「エッセイコンテスト」の入賞者発表、「親子大賞」の投票と発表、親子エッセイ「親ばか子ばか」の掲載、「親子の日ニュース」などが、掲載されています。



◆ 「親子の日」検索結果

今年も多くの人からのアクセスがあり、沢山のひとたちとWebを通じてのコミュニケーションをとることが出来ました。Googleで「親子」と検索すると「親子の日」のオフィシャルサイトが常にトップにあり、「親子の日」への関心の広さを実感しました。



親子の日

「親子の日2010」
検索アクセス数データ

◆ APRIL 13/ 2010

google search 28,100,000 (10,530,000)
yahoo search 9,276,000 (261,000)

◆ AUG 16/ 2010

google search 33,800,000 (16,530,000)
yahoo search 10,372,000 (333,000)

※ () 内は2009年度の数



▼ ポスター ≪A2サイズ…50枚≫



▼ ≪「親子の日」PR…20,000枚≫

▼ ≪公式イベントPR…5,000枚≫

▼ ≪公式イベント募集詳細…20,000枚≫



▼ エコバッグ ≪150枚≫

今年のエコバッグは、「親子の日」のロゴをモチーフとしつつ、「親子の日」のメッセージが、広く沢山のひとたちのもとに届くことへの願いと、命への育みをイメージしたデザインで作成。

▼ グリーンスティック ≪200個≫



「親子の日」のイメージを、グリーンスティックに込めて作成。マッチ棒状の先についている種が、受け取った人たちの手で芽吹いたことと思います。

▼ エコ封筒 ≪長3…500枚≫



エコ封筒とは、最初の宛名書きの所に最初の人が宛名を書いて投函。受け取った人は、2番目の宛名書きの所に受け取った人の知り合いの名前を書いて投函します。2番目の人から受け取った第3番目の人は、自分の友人の住所を書いて投函します。今回は、エコ封筒にはポストカードを複数枚入れて、多くの人に「親子の日」のメッセージを伝えていただきました。





「親子の日」公式イベント 親子の日2010スーパーフォトセッション

ブルース・オズボーンが2003年に「親子の日」を提唱して以来続けている撮影イベントです。
この日、招待した100組の親子が 都内のスタジオに集まって、賑やかに楽しい時間を過ごしました。
沢山の笑い声が響く中、撮影は順調に進行して、9時から20時までの長時間の撮影が無事に終了。
新しい試みとして、zを使っでの実況ライブも行いました。
撮影した写真は、後日、それぞれの親子に1枚ずつ送付。
また、ウェブサイトとオリンパスギャラリーでの展覧会で紹介しました。



撮影／宮庄明宏（オリンパス株式会社）



親子の日
2010の一日



恒例のスーパーフォトセッションには、今年も沢山のみなさまからの応募がありました。

応募者のみなさまから写真と一緒に送られてきた応募動機には、様々な親子のドラマが書いてあり、

100組の参加者を選ぶのは、非常に困難な作業でした。

以下、参加者から寄せられた応募の動機からの抜粋です。

＊ペルー移住を決意し、準備の為に一時帰国中です。この半年間、家族と離れて暮らし、家族のありがたさや、母の愛や偉大さを改めて感じました。大切な家族を日本に残して外国で生活することは簡単なことではありませんが、いつも私の事を心配してくれている家族がいることは、私の心の支えになっています。それで、母と妹へのサプライズプレゼントとして、スーパーフォトセッションに応募してオズボーン氏に二人を撮影して欲しいと思い立ちました。とても可愛い(!?)素敵な親子です。



＊父が亡くなって2年半。実家では母が一人で暮らしています。隣の商店に嫁いだ私は、仕事ついでに実家に立ち寄ったりしてはいますが、母とゆっくりとした時間を過ごす事もできない日々を送っています。デジカメで子供の写真は沢山写しましたが、私や母の写真を撮る機会は少ない上に、撮った写真は、子供達のように自然な感じにはなりません。今回、スーパーフォトセッションに参加することが出来たら、母と妹と3人で小旅行を兼ねて、東京の撮影所にワクワク、ドキドキしながら出かけてみたいと思います。



＊割烹料理屋をはじめて38年。父と共に毎日親子で厨房に立ち、お客様に喜んでもらえるよう、店の味をだいに守ってきました。最近新しい人生の伴侶を得て新たに人生の船出をした節目に、親父との今を撮っていただきたいと願います。

＊2010年は、結婚して10年目の記念の年です。二人の子どもをかかえての生活は、想像していた以上に苦労がたくさんありましたが、子どもたち2人がいなければ得られない幸せは、数えきれない程あります。どんなことにも新しい発見をし、毎日鮮やかに成長する子どもたち。小さなことにも笑い転げる彼らと過ごす毎日にいろいろ教えられる10年間でした。とびきりの笑顔で過ごす穏やかさ、不安や苦労を吹っ飛ばす力強さ。そんな私たち親子を、ブルース・オズボーンさんに撮っていただきたい時が来た…と感じています。「millennium wedding」から10年。しなやかに大きく羽ばたいて生きていくエネルギーを、撮ってください。



＊7月というのは、私たち家族にとってもビッグイベントの月です。私・兄・弟・私の娘、みんな7月生まれなので、毎年全員で集まり、聖誕祭をやることにしています。そんなビッグイベントの7月に、「親子の日」というものがある事を知り、ぜひ私たち家族を撮っていただきたい!と思いました。父が亡くなり一人残された母を兄弟全員で支えている私たちの絆を是非写してください。

＊結婚前から一緒に住んでいたのですが、結婚してもあまり独身時代と気持ちが変わらなかったのですが、子供が生まれたことで「家族」という意識が強く芽生えました。また、出産という神秘や成長の過程を目の当たりにし、改めて自分たちがここにいる奇跡を感じ、両親への感謝も深まりました。まだまだ新米のパパとママですが、これからは、親として、この小さい命を支え、又支えられつつ生きていくという決意をこめて、今の私たち「親子」の様子をぜひ写真に残したいと思いました。



＊「親子の日」を知ってからずっと応募したかったのですが、夫が日曜は休めなかったり、小さい娘を一人で都内まで連れて行くのは無理そうかな?とか、なかなか応募できませんでした。今年は、娘も晴れて小学校入学!夫も日曜が休みになりました!・・・という訳で、よろしくお願いします。

＊子どもを授かって以来、「自分は親として子どもに何をしてあげられるだろうか?」ということをよく考えます。きっと、自分がそうだったように、親の心配などおかないしに、子どもは成長するものかもしれませんが、私は、「親子の日」という記念日への出会いを、親と子どもの関係についてあらためて考えるきっかけの日にしたいと思いました。



＊「親子の日」のホームページを見ました。そこにはステキなお写真がたくさんたくさん、たあーくさんあって、1つ1つ、じっくり見入ってしまいました。それぞれの親子ならではの写真。そこに私たち親子も仲間入りできたら、とってもとってもステキな記念になるだろうなあーとわくわくし、応募することになりました。



＊～今朝の我が家の情景より～
「ママ、本をきれいきれいしたよ♪」お気に入りの絵本を洗面台で水洗いして得意顔の2歳の次女。一足先に出勤する私に「ママ、今日は明るい夕方に絶対迎えに来てね」と真っ直ぐな目で訴えかける4歳の長女。我が家では毎日が思いがけない発見や喜びで一杯です。この愛おしい子ども達との一瞬を、写真という形で残すことができたらと願い、応募いたします。



＊4月から、パパの単身赴任により、離れ離れの生活になりました。遠くで頑張っているパパと、パパがいなくてさみしくても頑張ってる子供たち(と私)のために、4人で揃った素敵な写真を欲しいと思い応募しました。それを見ながら、早くまた一緒に住めるように毎日頑張りたいと思います。宜しくお願いします!



＊3年前、長男は重い心臓病をもって生まれてきました。生後すぐにNICUに連れていかれた息子を私は抱くことさえ出来ず、不安な思いで毎日を過ごしていました。お宮参りにお食い初め、初節句、全ては病院の中。記念写真は一枚もありません。その後、入退院を繰り返しながら5回の手術と10回以上のカテーテル治療を乗り越え、この4月には妹とともに保育園に通えるまでに元気になりました。私も3年ぶりに職場復帰し、新たな生活が始まった今、家族みんなで初めての記念写真を撮りたいと考えていたところにこのイベントを知り応募しました。

＊ホームページで、ブルース・オズボーンさんが撮影してこられた親子の写真を拝見しました。見ているだけで、幸せな気持ちになってきて、親子、家族って、それぞれいろんな形があるけど、やっぱり素敵なんだから感じました。トップページの文章中に「今、私達に求められていること、それは親子というベシックで誰でも平等に与えられた関係を再確認すること。それは存在する事への自信を取り戻すことでもあり、人類として地球環境を大切にするという思いへとつながることでもあります。」という一文がありましたが、とても共感しました。今年、父が喜寿(77歳)になる記念に、親子一緒に写真を撮って頂きたいです!



＊昨年のクリスマスイヴに次女が長女から骨髄をもらいました。手術も無事に終わって、退院から約4カ月。今後への希望と命への感謝の気持ちを「親子の日」に込めて、記念写真を撮って欲しいと思います。

＊私はロサンゼルス在住で、妹はハワイ在住。息子と母は東京在住で、それぞれ別々に暮らしています。そんな3世代が、「親子の日」を目指して東京に集合し、素敵な思い出を作りたいと、フォトセッションに応募しました。

＊今は子どもも小さく、いつも家族一緒にいるのが当たり前で、小さな幸せを感じています。そんな当たり前の一瞬を、撮影イベントに参加して思い出に残したいと思いました。子どもが大きくなり一緒にいる時間が少なくなった時にも、写真を見て親子の絆を再認識したいと思います。



「親子の日」公式イベント 親子の日 2010 写真コンテスト

今年で7回目をむかえた写真コンテスト。
応募総数は753点と、昨年より更に多くの数の作品が全国各地から送られて来ました。
内容的にも、いろいろな角度から見つめた「親子」の姿を捉えたバラエティーに富んだ作品が揃っており、楽しい審査会でした。
受賞者は以下の25名に決定しました。



◆ オリンパス賞 ICレコーダー



ふうたろう
(長野県)



長沢亜希
(東京都)



双眼鏡
TripLight
鈴木智代
(神奈川県)

◆ そごう・西武



母の日賞 アロマディフューザー
高橋愛子 (神奈川県)



父の日賞 ビクニックグリル
フラワー (香川県)



親子賞 デジタルフォトフレーム
るいっちょ (兵庫県)

◆ 毎日新聞社賞 もったいないグッズ



snowmelt (宮崎県)



阿川めぐみ (東京都)



井上千寿 (京都府)

◆ エプソン賞 プリンター



桜枝広美 (北海道)

◆ 円谷プロ賞 DVD「ウルトラセブン」1 2 巻セット



伊藤千恵子 (愛知県)

◆ ラストソング賞 著者サイン入り書籍



Nanako Liles (U.K)

◆ トリニティーライン賞 スキンケアセット



しずく
(北海道)



米田正代
(沖縄県)



足立和子 (大阪府)



中里真一 (群馬県)



まる (愛知県)



しおりパパ (千葉県)



小倉栄二 (大阪府)



えみゆ (香川県)

◆ 親子の日賞「親子の日」オリジナルグッズ



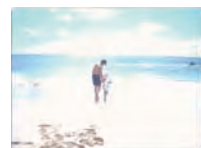
derapan (愛知県)



諏訪貴政 (大分県)



高橋光里 (東京都)



大鹿尚一 (東京都)



ほっぺ (福岡県)



「親子の日」公式イベント 親子の日 2010 エッセイコンテスト

第6回目をむかえた「親子の日エッセイコンテスト」には、325点の応募がありました。
懐かしい思い出、今まで伝えられなかった思いなど、どの作品にも深い思いが込められていて、甲乙付けがたい作品がいっぱいでした。年齢的にも、小学生から90代と幅広く、介護する人からのエッセイや、介護を受ける立場の人からの応募など、時代を反映した内容が多く目立ちました。
受賞者は以下の26名に決定いたしました。



◆ オリンパス賞 μTOUGH (水中対応カメラ) 岡部達美 (東京都) 「いてもいなくても、親子」

双眼鏡 TripLight

栗原千明 (東京都)

「おかえり事件」

こうさからんまる (北海道)

「元祖デコ弁」

◆ 毎日新聞社賞 もったいないグッズ みゃーらん (神奈川県) 「はちまき」

石原真弓 (茨城県)

「父からの手紙」

瀧野稔 (大阪府)

「魂のキズナ」

◆ エプソン賞 プリンター

笹井良太 (東京都)

「親子のキャッチボール」

◆ 円谷プロ賞 DVD「ウルトラセブン」

大迫一幸 (兵庫県)

「赤い鳳凰」

◆ ラスト・ソング賞 著者サイン入り書籍

かおり (Greece)

「父の存在感」

◆ トリニティーライン賞 スキンケアセット

ふう (山梨県)

「ふう、今日も笑ってるよ。」

伊勢田恵子 (滋賀県)

「朗子への手紙」

関根真知子 (千葉県)

「嬉しかった、親の失敗」

井上陽子 (北海道)

「息子がくれた指輪」

傘の日 (福岡県)

「母の家出」

● 受賞者からのメッセージ

先日、「親子の日普及推進委員会」から、受賞の知らせと賞品が届きました。大変嬉しかったです！この度の受賞は 親子の絆を取り戻すために大変よい機会となりました。内容を読んだ父は妻に会うための食事会をセッティングしてくれたのです。結婚してからやはりお金がなく、父にお礼ができていませんでしたので、いただいた賞品を父にプレゼントすることにしました。それを口実に父に会いたいという、やっぱり不器用な私の作戦でもあります。本当にありがとうございました。

◆ 親子の日賞 「親子の日」オリジナルグッズ 息子はママの宝物 (岡山県) 「君と似ている私」

高木朝雄 (兵庫県)

「歩く」

達木村チヅ子 (大阪府)

「ありがとう、息子様」

たまたまこ (大阪府)

「よかったやんな！」

飯島文香 (東京都)

「バランス剤」

山本久仁子 (大阪府)

「世界で一番たいせつな絆」

猫背 (大阪市)

「おとんの最期の写真展」

毒魔女館長 (鹿児島県)

「母の日とチョコレート」

宮永富栄 (千葉県習)

「忘れんぼうになった母へ」

おかび (大分県)

「父の似顔絵」

神谷嘉人 (沖縄県)

「花屋の息子」

井中かわす (新潟県)

「父親らしさ」

「親子の日」公式イベント オフィシャルソング



「親子の日」のオフィシャルソングを決めるようになってから今年で2回目。

今年は、「ジャパニーズ・レゲエ」という言葉すらなかった頃からレゲエのメジャーフィールドで活躍してきたMOOMINが歌う「うまれたての瞳」に決定。いくつになっても親子は親子という温かな思いのこもった歌のイメージとMOOMINの優しくかつ深みのある歌声が、「親子の日」の活動に寄り添った一年でした。銀座アップルシアターでのイベントや、「親子の日」で撮影した写真を展示したオリンパスギャラリー展覧会のオープニングパーティーなど、生歌を披露してくださいました。



「親子の日」公式イベント 親子大賞

親子の日普及推進委員会では、「親子」について考えるきっかけになって欲しいとの願いから、ホットなニュースを提供してくれた親子を公募で選ぶ、「親子大賞2010」を実施いたしました。このイベントは今年で第4回となり、インターネットを通じての投票の結果、「親子大賞2010」は、第1回目に選ばれた関根勤さんと関根麻里さんの親子と決定。オリコンも「親子大賞」のコンテストを行い、同じく関根親子がトップの得点を獲得しました。



親子大使

今年新たに、「親子大使」という制度を導入いたしました。親子大使は、「親子の日」のメッセージ・ナビゲーターとして、それぞれの立場から「親子の日」への思いを発信していただき、より広く沢山の方々に「親子の日」に込めた思いを伝達して欲しいということで始めた制度です。

一人目の「親子大使」は、映画監督の大林宣彦様にお願いして、快諾をいただくことができました。



親子の絆は縦軸のコミュニケーションである。現在と過去、現在と未来を結ぶ時間を豊かにしてくれる。情報社会は横軸の世界を広げてくれたが、縦軸の約束を忘れてきた。その事が現代の不幸を多くを生んだと反省する今、親子を結ぶ物語が切実に必要だ。「親子の日」を応援します

大林宣彦 (映画監督)

「親子の日」共催イベント 写真展



オリンパスイメージング株式会社様と「親子の日」の共催で、東京と大阪のオリンパスギャラリー 2 会場の展覧会が実現しました。写真展のタイトルは「親子の日2010～親子の日に出会った100組の親子～」今年、写真展示の他に、「親子の日」に行った撮影会「スーパーフォトセッション」への参加者から寄せられた応募の動機等も展示。沢山の来場者から、共感のメッセージと温かいコメントをいただきました。

★ 作品制作データ
カメラ/Olympus E-3
レンズ/ZUIKO DIGITAL ED 14-54mm
プリンター/エプソンPX7500
ペーパー/エプソンTEXTURED FINE ART PAPER

◆ オリンパスギャラリー東京

2010年 9月2日～9月8日



◆ オリンパスギャラリー大阪

2010年 9月16日～9月29日



トピックス

◆デジタルハリウッドでは、今年で2回目となる「親子の日」のポストカードコンテストを実施。グランプリに、山田麻里子さんが選ばれました。



「親子の日賞」の受賞ありがとうございます。受賞を知り、飛び跳ねるほど嬉しく思いました。私には、私を育ててくれた沢山の親がいます。小学まで育ててくれた父方の祖父母、中学から一人で育ててくれた父。いつまでたっても超える事の出来ない変わらぬ存在であること、いつも感謝している事をこのポストカードに込めて制作いたしました。改めて、親子の関係を考えさせてくれた、この機会を有難く思っております。

● 山田麻里子

◆ADKの“こども生活向上プロジェクト”の協力をいただき、はじめての試みとして、キッズデザイン協議会(内閣府認証NPO)が主催するコンテスト



に「親子の日」がエントリー。入賞しました。賞作品の中から78点を展示した発表会では「親子の日」も展示参加。26,506人(大人14,470人、小人12,036人)訪れました。



特別協賛として7年間「親子の日」を応援してくださっているオリンパスは、今年も「親子の日」のスーパーフォトセッションには、社員のボランティアスタッフが参加してくださり、一日中他のスタッフとともに、イベントの潤滑な運営のお手伝いをしてくださいました。また、新たな試みとしてシブヤ大学とのコラボレーション企画を実施するなど、「親子の日」への温かい応援をしてくださいました。

◆シブヤ大学授業レポート

写真を通して見えたそれぞれの「親子の日」より抜粋

シブヤ大学では「親子の日」を応援するオリンパス×OLYMPUS Digital Collegeとのコラボレーション授業企画として、6月20日は「写真で会話してみよう～父の日に写真でワークショップ～」、7月17日は「親子の日は撮影散歩～写真でコミュニケーション」を行ってきました。

その第3弾として、28年間親子写真を撮り続けてきたオズボーンさんのお話と、参加者全員が「親子」について考えるグループワークという2部形式の授業を行いました。(中略) 今年の「親子の日」に、2人の娘さんとともに撮影をしてもらったというご夫妻がこの授業に参加。「最初は緊張しましたが、とても楽しい雰囲気の中で撮ってもらえました。家族4人の写真は、大切に玄関に飾ってあります。家の中が明るくなったようです」と話していました。第2部は、5つのグループに分かれての話し合い。まずは、「今年の親子の日をどう過ごしたか?」ということ話をしながら自己紹介。次に、「親からの授かりものは?」ということ話をグループで話し合った後に、それぞれの代表者が発表をしました。母からは無償の愛、父は超えるべき目標、命、私たちが今ここにいることそのもの、健康な体、自分を産んでくれたこと、遊んでくれた時間、性格、名前、意識できないもの、反面教師などのキーワードが出されました。そのあとで「来年の親子の日を



どう過ごしたいか?」ということについてもグループで話し合い代表者が発表。オズボーンさんに写真を撮ってもらいたい、みんなでご飯を食べる、一緒にDVDなどを観る、アルバムを見ながら一緒に過ごす、花火をする、その日は親子間の携帯通話料が無料になればいい…など、お互いの発表を聞きながら「なるほど～」と頷く人も。最後に再びスクリーンのスライドショーを見ながら、また、さまざまな親子の表情を発見しました。(中略) 「離れている両親に普段会えなくても、電話ぐらいはなくちゃね」などなど、家族を思う気持ちをたくさん共有して、みんな、なんだか来たときよりも、やんわりとした表情。「親子の日」って知ってる? これから会う友人、知人には、胸を張っているいろいろと教えてあげましょ!



そごう・西武では、「母の日」「父の日」を通して「親子の日」に繋がるプロモーションを展開。「母の日」と「父の日」それぞれに行った写真コンテストや撮影会を催しました。他に親子のチャレンジをサポートする「親子チャレンジ宣言」という企画を展開。応募者数も非常に多く「親子の日」と企業のコラボレーションとして新たな可能性を感じました。



「親子チャレンジ宣言」の発表会では、伝説のプロスキーヤー三浦雄一郎氏と、オリンピック出場をはじめ幅広く活躍をされているご子息の三浦豪太氏親子をゲストにトークショーを開催。三浦親子がこの夏、



難病の患者の方たちとチャレンジする富士登山にける思いも「親子チャレンジ宣言」しました。





企業との取り組み トリニティーライン

「親子の日」2年目から協賛をしてくださっているトリニティーラインは、常に細やかなサポートで「親子の日」の普及の応援をしてくださっています。

- ◆ 本社受付ロビーでのコーナー展示
(ブルース・オズボーン著書・親子の日ハガキ)
- ◆ 会報誌『TRINITYNOTE』Vol.34 (約12万部) の
ニュースページへの掲載
- ◆ ホームページ TOP インフォメーションコーナーでの告知
- ◆ メルマガでの告知
 - ・6/25 配信分：冒頭
 - ・8/20 配信分：文末
(購読者数約5万人)



企業との取り組み 毎日新聞

特別協力として「親子の日」を応援してくださっている毎日新聞では、一昨年から「親子インタビュー」という特集を組んで、各界の親子のストーリーを掲載してくださっています。親子の写真撮影は、ブルース・オズボーン。記者のインタビュー記事からは、様々な親子模様がかいま見られ、「親子」という関係の広さと深さが読み取れます。



企業との取り組み J-WAVE

kiss and hug 等の番組を通じて「親子の日」普及のための後援をしてくださっている J-WAVE では、今年も、番組中の沢山の時間を「親子の日」のPRの為に提供してくださいました。

また、新たな試みとしては、親子リスナー160名を映画試写会に招待。

S&B presents J-WAVE KISS+HUG CINEMA PARTYを行いました。ナビゲーターは勿論SHELLY。上映した映画は、『ベスト・キッド』でした。当日は、来場した親子を会場入り口で撮影し映画を見終わって帰る時には撮影した写真をプリントアウトしてお渡しするというプレゼント付き。「親子の日」から派遣したカメラマンが、汐留にあるスペースFS汐留に向いて撮影。「親子の日」のメイン会場とともに、汐留の会場も、大いに盛り上がりしました。



▼高畑淳子×高畑こと美親子(2010年5月8日掲載)



▼斎藤洋介×斎藤悠親子(2010年6月19日掲載)



▼三浦雄一郎×三浦豪太親子(2010年7月25日掲載)



▼安田祥子×澤田泰子親子(2010年1月24日掲載)



▼大林宣彦×大林千栄英親子(2010年10月24日掲載)



▼ワンガリ・マータイ×ワンジラ・マータイ親子(2010年3月26日掲載)



▼伊集院静×西山蘭子親子(2010年2月28日掲載)



▼ウルトラセブン×ウルトラマンゼロ親子(2010年7月10日掲載)





◆ 米原市

「親子の日」に共感してくださっている滋賀県の米原市では、“親子の絆”プロジェクトを始動するにあたり、米原市の泉峰一市長が、伊吹山テレビで「親子の日」を紹介。米原市が、7月第4日曜日を「親子の日」に正式に制定すると宣言。「親」と「子」の関わり的重要性を市民に呼びかけました。米原市では今後、“親子の絆”プロジェクトとして様々な企画を実施し、多くの市民が参加することになります。「親子の日普及推進委員会」は、米原市を「親子の日」普及推進のモデル自治体とし、今後も地方自治体へのアプローチを重要な課題としていく予定です。

全国に先駆けて「親子の日」を公式制定した珠洲市でも、親子をテーマにしたイベントが行われました。

◆ 越谷市レイクタウン

エコ活動を支援する越谷市レイクタウンは、～あなたのエコ宣言を、大切な人と一緒に素敵な写真として残してみませんか？～という撮影イベントを行い、「親子の日」普及の応援をしてくださっています。撮影した写真は、11月から埼玉県越谷市のレイクタウンにあるイオン館内に展示されています。



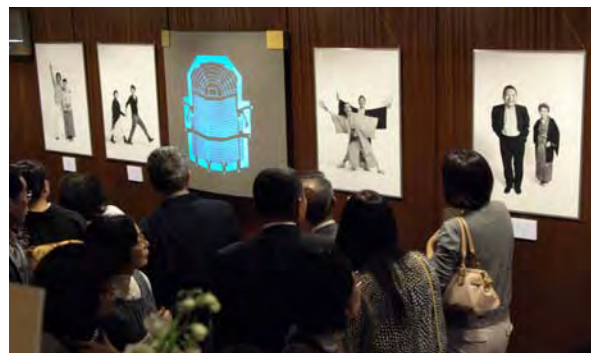
アチーブメント出版社

「きみに読む物語」「メッセージ・イン・ア・ボトル」などの話題作で有名な米国人の人気作家ニコラス・スパークスの「ラスト・ソング」日本語版を出版したアチーブメント出版では、今年、「親子の日」に特にお薦めしたい本として、書店で「ラスト・ソング」を紹介。「親子の日」普及の応援をしてくださいました。



◆ 由紀さおり&安田祥子コンサート

由紀さおり&安田祥子姉妹の今年の全国コンサートツアーのテーマが親子だったことで、東京サントリールホールをかわきりにスタートした一年間で約50ヶ所のライブ会場のロビーには、ブルース・オズボーンの「親子」写真が展示されました。ステージでは、お二人が「親子の日」についての話題に触れたトークをして、会場を訪れた沢山の人たちに「親子の日」を伝えてくださいました。



◆ 日本写真館協会の取り組み

日本写真館協会の呼びかけで、「親子の日」に、親子写真を撮る写真館が少しずつですが現れました。



◆ ぐるなび

昨年に引き続いて、“ぐるなび”では、「親子の日に行きたいお店」というイベントをして、「親子の日」の啓蒙に協力してくださいました。



◆ 円谷プロ

親子でシュワッチ！ウルトラファミリーも「親子の日」を応援！「親子の日」への賛同をいただき、キャラクターの根強いファン層に向けて「親子の日」普及促進の協力をいただきました。

また、毎日新聞の紙面「親子インタビュー」出演など、ウルトラセブンとともに、新たに登場したウルトラセブンの息子ウルトラマンゼロが、「親子の日」の盛り上げに一役かったださいました。



◆ アップル

昨年に引き続き、今年も銀座のアップルシアターで、「親子の日」のプロモーションを兼ねてのプレイベントを行いました。イベント当日は、まず招待した親子を、ブルース・オズボーンが撮影。MOOMINの歌声にあわせて撮影した写真をモニターに投影するというもの。アップルのスタッフと参加者のみなさまから、温かいコメントをいただきました。



◆ Kネット

共同親権を訴える活動をするNPOのKネットでは、「親子の日」の前日を「共同養育の日」としてイベントを行いました。今後、「親子の日」でも、このようなインフォメーションを積極的に共有していこうと思っています。



◆ 湘南の「親子の日」

ブルース・オズボーンの地元、神奈川県湘南では、年々「親子の日」のイベントをする人たちの輪が広がっています。

* とびうおクラブ

親子で自然を知り、親子でコミュニティーを知ろうという活動をするNPO法人“とびうおクラブ”は、5月に行われた葉山芸術祭のイベントの一環として「親子の日」PRも兼ねて、第2回目のBAREFOOT STUDIOを企画。



* サーファーズ

夏の逗子海岸に2ヵ月だけ出現するビーチハウスのサーファーズでは、MOOMINのライブとブルースの写真でコラボレーションのイベントを企画。「親子」をテーマに盛り上がりました。



オアシス

今年30周年をむかえたオアシスは、葉山のビーチハウスの老舗。「親子の日」当日に親子ライブが行われました。



* 江のフェス

江の電開通100周年と藤沢市制施行70周年が重なるプレミアムな年を記念した今年の江のフェスは、大いに盛り上がり幕を閉じました。このイベント会期中の10月24日に、ブルース・オズボーンと「湘南スタイル magazine」がコラボレーションする「湘南親子の日」撮影会を、江の島展望灯台サンセットテラスで行いました。

※撮影した写真は12月25日発売の「湘南スタイル」に掲載されます。





公式サイト「各地のイベント」に登録された事業

「各地のイベント」のサイトには、全国から「親子」をテーマにしたイベントの情報が届きました。小学生を中心に行われた行政主催の体験型親子イベントや企業が企画したECO対策や食育など、取り組みの内容に現代社会が反映されていました。

＊親子で体験！サントリー ウーロン茶



＊ピオトー親子自然体験会



＊建設現場を親子で歩こう



＊親子でチャレンジ！リズムテコンドー



＊親子で自然体験活動



＊親子 DE エンジョイフィッシングスクール



＊ちゅうでんクリスマス親子ふれあい劇場



＊夏休み親子でウッドクラフト



＊親子でバイクを楽しむ会



＊夏休み「親子で三線を作ろう」



掲載メディア情報

◆ラジオ／テレビ

後援してくださっているJ-WAVEでは、数多くの番組で「親子の日」についての呼びかけをしてくださいました。他にも、横浜FM、東京FM、NHK国際ラジオ、J:COMなどにも出演。「親子の日」について熱く語ることが出来ました。



◆新聞

特別協力の毎日新聞の紙面以外にも、湘南読売やお母さん業界新聞など、今年も新聞での「親子の日」告知協力を沢山いただくことが出来ました。



◆雑誌・WEBマガジン

湘南の親子を撮影した写真は、FM横浜で発行する雑誌に掲載。江のフェスのイベント「湘南の親子の日」で撮影した写真は、12月25日発売の雑誌「湘南スタイル」に掲載。



WEBマガジンのEARTH MAGAZINEは、創刊号にブルース・オズボーンの親子写真を掲載。「親子の日」の紹介をしてくださいました。新しいメディアの可能性に期待したいと思います。



◆インターネット関連

iPhoneとiPad用のアプリを作ることが出来、「親子の日」発信の新しい原動力となりました。





EPSONプロセクションブログ



福岡県星野村ブログ



たつ人のブログ



スイスイフィジーブログ



エクセルホテル東急グルメ



スーパーフォトセッションin金沢



DIAMOND MEDIA



写真を楽しむ生活での案内



じだらくさんのブログ



神戸市青葉園「親子の日礼拝」



プレスリリース



湘南日記 逗子海岸



CCN ニュースフラッシュ



コレット.com「親子の日」



7月25日 eeg



スタジオアディの「親子の日」



朝日マリオ・コム



excite news



親子でチャレンジ



FMyokohama"The Burn"



子育て支援ニュース



CampusCityイベント開催案内



イバログ「親子の日」



親子の日写真コンテスト



iPhone Magazine



エッセイコンテストご案内



原宿新聞「そごう・西武とコラボ」



LEAFHIDENEWS





◆ University of the Pacific

ブルース・オズボーンが、写真を自分の仕事とすることを決めて写真専門大学に入学するまでの日々を過ごした、カルフォルニアの総合大学 University of the Pacificで開催したジャパンフェスティバルでは、10月15～24日の10日間、ブルース・オズボーンの親子写真が展示されました。アメリカで、ブルース・オズボーンの写真を展示するのは、今回が初めての試みです。今後も、親子の写真を海外の人たちにも見てもらい「親子の日」普及のきっかけ作りとなることを期待されます。



◆ Web 今年も沢山の海外メディアで紹介されました

apple mobilize



Candid Frame Podcast



App Shopper



App02



Green Tea Gallery



ブルース・オズボーンが IPA 賞を受賞！

世界的な権威を誇る写真コンテスト International Photography Awards が、今年も New York で開催されました。103 国から寄せられた応募総数 15,000 にも及ぶの作品の中のプロフェッショナル部門で、ブルース・オズボーンの親子写真が入賞しました。



International Photography Awards



iFreeware



Discover Great iPhone Apps



iApper



University of the Pacific



Cyber Flopping



Download Cheap App



WIKIPEDIA



Word Dominatio



twitter



PCWorld



Mashpedia



Museum of Learning





ちよ>>

自分がいるのは両親がいて両親がいて…ってつなげてくと自分が生まれてきた過程にはスゴイ多くのご先祖様がいらっしゃるってこと。両親・祖父母・ご先祖様に感謝していかないって、改めて思いました。そんな思いを改めて気付かせてくれる「親子の日」って、素敵なアイデアですね。



M&M>>

葉山のオアシスでは、「親子の日」に南條ファミリーのライブがありました。親子でおなじ道を歩めるなんていいな～。音楽を聞きながら、家族って良いな～と思った一日でした。



たかし>>

母の日も父の日も毎年うっかりスルーしてしまう親不孝者なので、たまには何かしなくちゃ……というわけで今年は両親&弟を呼び寄せて、「親子の日」の撮影会に参加。一家4人で撮影する機会を作りました。4人が同時に顔を合わせるのは、たぶん今世紀初めて(笑)。さらに一家で写真を撮ったことなんて、あったかどうか……。それだけに

いい思い出になりました。ブルースさん、そしてスタッフの皆様、ありがとうございました。



チームK>>

撮影会に参加させて頂きました。車中からドキドキ&楽しみにしていましたけど、本当のモデルさんになった気分心地よく撮影に臨むことができました。親バカですが、子供達の笑顔も可愛く撮っていただき写真を見るたびに私たち夫婦の顔もほころびます。ありがとうございました^_^



ハッピー>>

「親子の日」に参加させていただきました。送っていた写真は実家の玄関に飾られています。両親は来るひと来るひとに自慢してみせびらかしているようです。今年の夏の1番の思い出となりました！どうもありがとうございました！



ジェラシック>>

今年の「親子大賞」は、関根勤さんと関根麻里さんだったんですね。度々テレビで共演している姿も見かける関根親子。共にタレントとして活躍中し、ユーモアたっぷりの父親と笑顔が愛らしいしっかり者の娘。選ばれたのは、当然と言えば

当然。親との距離が遠い私にとって、友達親子な感じが羨ましい…。



よっしー>>

小さい頃、「父親や母親の愛は子どもの自分たちだけに注がれるもの」と思っていました。もちろん、たくさんの愛情をいただいたのですが、父にも、母にもお父さんとお母さんがいるんですね。祖父と祖母にもお父さんとお母さんがいて…。私が両親を想うように両親も自分の親を想っているんですね。何という題名か忘れましたが「おとうさんの、あかあさんは、おばあちゃんだってさ♪おばあちゃんの、あかあさんは、ひい～おばあちゃんだってさ♪」そんな歌を4歳か5歳の頃歌っていました。見た事のない、ひいひいひいひい…じいちゃんのことを考え、不思議な気持ちになったのを今も覚えています。今日はお父さんとお母さんに連絡取ってみようかな。



新米ママ>>

すっかり、我が家の年中行事となった「親子の日」のことを友人に紹介すると、「うちには小さな子どもがないから …」と言われてしまうことがあります。でも考えてください。みんな誰かの子どもなんですよ。年齢を重ねた親と子で、たまにはじっくり大人の話をしてみたいかでしょう。私は今年、新米おばあちゃんの私の母と、私の息子、それから私の親子3代で、久しぶりに食事を一緒にしようかと計画中です。



ミッキー>>

「親子の日」のスーパーフォトセッションに参加できて、楽しい一日を過ごすことが出来ました。撮影会場に行くまでは、いろいろと不安でしたが、カメラマンのブルースさんはとっても気さくで優しい方。スタッフの皆様の応援もあって、カメラの前でも緊張しないでポーズをとることが出来ました。プレゼントとして届いた写真は我が家の宝物として玄関に飾りました。朝私たちを送ってくれ、夜には私たちを迎えてくれます。



夏>>

親子参加型のイベントは、親子コミュニケーションの好機です。『親は子に伝え、子は親に学ぶ』という関係は、広く世代間にも共通すること。地域や企業の基礎としても重要なものでもありますね。



YUKALOCIOUS>>

7月25日の「親子の日」に、ミュージシャンの父と一緒に親子で写真を撮ってもらった。ちょっと恥ずかしかったけど、パパさんの嬉しそうな顔を見て、ま～よかった、かなって思ったり…。先日、写真が届き、パパさんに素敵なプレゼントが産まれたこと、産んでくれたオズボーン氏に感謝。大切な思い出の1枚になりました。



さん歩>>

親子の日です。今日はいつもとひと味違う会話をしてみましょう。普段は言い忘れていることがあったら、今日はそのお話しをする日に…。ちょっと勇気を出して！



あきら>>

『親子で時を共有する一日に』というコンセプトのもと、アメリカ人写真家ブルース・オズボーン氏の呼びかけによって始まったのが「親子の日」です。オズボーン氏は、毎年この「親子の日」に100組の様々な年代の親子を招待し、撮影することを通して「親子のつながりを見直すきっかけにしたい」と語っているそうです。日々忙しく働いているお父さんもしくはお母さんと子供たち。ふと立ち止まって写真を撮ったり話をするきっかけになるのもいいのかもしれないかもしれません。



写真大好き>>

『親子の日』の写真展に行ってきました。ビデオもいいけど、一枚の写真には、その時の前後の思い出もいっぱい詰まっていますよね。



ちち>>

そごう、西武、ロビンソンが全国の店舗でおこなってきた、リフティング大会で優勝した親子が集まり、全国一位を決めるイベントに行ってきました。親と子供が力をあわせて、リフティングをリレーしていくんですが、二人で力をあわせている姿が、とても素敵でした。



えりか>>

「親子の日」の撮影会に参加しました。スタジオには色々な家族が思い思いの格好をして仲良さそうに写真を撮ってもらっている様子に私とママもハッピーな気持ちに☆大人になって、家族で過ごす日を作るのも、一緒に昔々を通して「親子のつながりを見直すきっかけにしたい」と語っているそうです。日々忙しく働いているお父さんもしくはお母さんと子供たち。ふと立ち止まって写真を撮ったり話をするきっかけになるのもいいのかもしれないかもしれません。何年ぶりだかわからないくらい久しぶりに二人でお出かけしてランチ。それからショッピングして一緒に家でディナーを作って、パパが帰って来てから3人でゆっくりととても良い気分でご飯を食べました☆今日一日の私とママの話を聞いた後で気分を良くしたパパは、趣味で習ってるダンスを披露してくれました。おかげ様で家族揃って笑顔になれる素晴らしい休日を経験しました☆写真の展示が9月にあるそうなので、家族揃って見に行こうと思います。みなさんも是非親子の日を広めましょ～☆☆☆



感謝感激>>

長年親子の写真を撮り続けてきた写真家のブルース・オズボーン氏らが親と子の関係を見つめ、生を受けたことを感謝できる社会を築こうと提案して生まれたというのが「親子の日」の誕生のきっかけなんだそう。夏休み中の日曜日、どこかへお出かけもいいですが、この日はゆっくり親子だんらんの一日を過ごしてみたい。能、源氏物語、東海道五十三次、源平合戦の4柄から選べる古色美しい和風トランプなら、親子の会話も一層盛り上がるかもしれませんね。



一安心のよし>>

今日、7月の第4日曜日は『親子の日』らしいです。はじめて聞いたんですけど、ちょっといい日！！だって共感。思わずお母さんに電話したら、元気でした。



リトルまーぼう>>

7月25日(7月の第4日曜日)は親子の日であるそう…今日初めて知りました。これを機会に、今日から、「親子の会話チャレンジ」を始めます。





「親子の日」の歩み

- 2003** はじめての親子の日
- ・ブルース・オズボーンの自主企画として 100 組の親子を撮影。
 - ・「親子の日普及推進委員会」発足。
- 2004** 2 回目の親子の日「親子の日スーパーフォトセッション」で 100 組の親子を撮影
- ・オリンパスギャラリーにて『親子』写真展を開催。
 - ・第 1 回「親子の日写真コンテスト」を開催。
- 2005** 3 回目の親子の日「親子の日スーパーフォトセッション」で 100 組の親子を撮影
- ・「親子の日」を記念日協会に正式登録。
 - ・銀座アップルシアターにて音楽と映像の融合イベント『OYAKO open mic.』を開催。
 - ・TV 金沢の主催により金沢 21 世紀美術館で『親子』写真展を開催。
 - ・会場内特設スタジオでの公開親子撮影会で石川県の親子 30 組を撮影。
- 2006** 4 回目の親子の日「親子の日スーパーフォトセッション」において 105 組の親子を撮影
- ・外国人記者クラブにて、『親子』写真展を開催。
 - ・日本写真館協会の主催イベントにて大阪の親子 30 組を撮影。
 - ・愛知県児童総合センターにて『親子』写真展を開催。
 - ・第 1 回目「親子の日エッセイコンテスト」を開催。
 - ・オリンパスギャラリーにて『親子の日報告写真展』開催。
- 2007** 5 回目の親子の日「親子の日スーパーフォトセッション」において 100 組の親子を撮影
- ・オリンパスギャラリーにて『親子の日報告写真展』開催。
 - ・第 1 回「親子大賞」を実施。
 - ・愛知県児童総合センターにて『親子』写真展を開催。
 - ・能登半島地震の被災者親子写真を撮影、ラポルト珠洲で展覧会を開催。
 - ・石川県珠洲市が、「親子の日」を公式制定。
 - ・JCII（日本カメラ博物館）、千葉県ユーカリが丘にて写真展開催。
- 2008** 6 回目の親子の日「親子の日スーパーフォトセッション」において 100 組の親子を撮影
- ・オリンパスギャラリーにて『親子の日報告写真展』開催。
 - ・愛知県児童総合センターにて、『親子』写真展開催。
 - ・埼玉県越谷市のレイクタウンで『親子&仲間』写真展開催。



金沢 21 世紀美術館での「親子」写真展



愛知県児童総合センターでの「親子」写真展



スーパーフォトセッション撮影風景



オリンパスギャラリーでの写真展



越谷市レイクタウンオープニング挨拶

- 2009** 7 回目の親子の日「親子の日スーパーフォトセッション」において 100 組の親子を撮影
- ・オリンパスギャラリーにて親子の日報告写真展『ブルース・オズボーンと親子写真～「親子の日 2009」に出会った 100 組の親子』開催。
 - ・東京ビッグサイトで行われた Photo Imaging Expo 2009 で撮影とトークイベントに参加。
 - ・arp の“わたしのこえ”を第 1 回公式ソングと決定。
 - ・銀座アップルシアターで、arp とコラボレーションのイベントを実施。
 - ・川崎アートセンターで『夏休みは親子 de 映画』企画。写真展も開催。
 - ・阪急三番街 40 周年記念イベント『親子写真展』を開催。
 - ・愛知県児童総合センターにて、親子写真展『家族のうれしい顔』を開催。
- 2010** 8 回目の親子の日「親子の日スーパーフォトセッション」において 104 組の親子を撮影
- ・第 7 回目「写真コンテスト」、第 5 回目「エッセイコンテスト」を開催。
 - ・第 4 回となる「親子大賞」を実施。
 - ・オリンパスギャラリーにて親子の日報告の展覧会、『ブルース・オズボーンと親子写真～「親子の日 2010」に出会った 104 組の親子』開催。
 - ・滋賀県米原市が、「親子の日」を公式制定。
 - ・MOOMIN の「うまれたての瞳」を、2010 年公式ソングと決定。銀座アップルシアターで「親子の日」普及のコラボレーションイベントを実施。アプリを作成し iPhone と iPad に掲載。
 - ・オリンパスと「親子の日」が協働するシブヤ大学で、ブルース・オズボーンが講師を務める。
 - ・毎日新聞が「親子インタビュー」を連載。
 - ・「親子の日」普及の目的で、そごう・西武が、写真コンテスト、撮影会などを実施。
 - ・「親子の日」当日、J-WAVE がリスナーを映画会に招待。「親子の日」から派遣したカメラマンが、来場者の親子を撮影。プリントをプレゼントするイベントを行った。
 - ・University of the Pacific（カリフォルニア）で、海外初の『親子写真展』を開催。
 - ・「親子大使」制度を導入。
 - ・ブルース・オズボーンの写真「親子」が、International Photography Awards を受賞。海外でも「親子」の写真が高い評価を受けた。
 - ・一年間を通して全国約 50ヶ所で行われた、由紀さおりと安田祥子姉妹コンサートの各会場で、『親子』写真展示が行われた。
 - ・第 4 回キッズデザイン賞にエントリー。入賞を果たす。



PIE イベント会場



阪急百貨店「親子写真展」



シブヤ大学集合写真



University of the Pacific で海外初の「親子写真展」



公式イベントを中心に普及推進活動を行ってきた「親子の日2010」は、例年にもまして多くの人たちとネットワークを広げることができました。メディアでの露出が大幅に増えたのに加えて沢山の人たちが「親子の日」に関しての話題をブログに書いてくれるなど、マスメディアとともにプライベートに「親子の日」を告知してくれたという現象が加わって、共感の輪がさらに大きくなりました。多くの人に「親子の日」に込めたメッセージを伝えたいという目標が少しずつ実現し、28年間に撮影した親子の数は、ついに2500組を超えることになりました。

ご協力、応援、また、ご参加いただいた皆様、本当にありがとうございました。

未来への目標を常に確かめながら、「親子の日2011」、そして10周年となる2012年に向けての一步一步を、これからも大事にしていきたいと思えます。



2010年7月25日「親子の日2010スーパーフォトセッション」終了時の記念写真

一年間どうもありがとうございました

- ・新井美保・石原繁・磯貝日月・井上佳子・猪股敏郎・上田壮一・大関和彦・オクケンユ
 - ・織田匡一・ブルース・オズボーン・実佳・オズボーン・由良・オズボーン・梶原美紀
 - ・川口花乃子・木村晋介・岸俊一・ジム・クーパー・小斎富士子・後藤マリア・酒井正樹
 - ・櫻井健太・佐藤仁・沢田節子・鹿野貴司・志喜屋秀壮・善福克枝・竹中めぐみ
 - ・田中勇樹・堤哲・手塚俊平・中川朋文・長塚かおる・並木和之・根本仙弥
 - ・長谷川優・林和男・林陽子・樋貝吉郎・平田麻子・福原義久・古河雄太・松井はるの
 - ・松井ヒカル・松井博司・松崎稔・宮崎光弘・宮庄明宏・水野誠一・森本唯・森下茂男
 - ・安池直子・吉岡篤史・米山明希子・横山泰介・横山とも・ビクター・ワラノフ・渡辺熱
- (あいうえお順／敬称略)



「親子の日」の活動ではグリーン電力(1000kWh)を利用しています。

“生まれて

初めて出会う「親」と「子」の関係

を見つめ、家族、地域、社会、そして自然をも

含むすべての「環境」に敬意をはらい、平和を願う”

という思いを込めて、「親子の日」のオリジネーターで

あり写真家のブルース・オズボーン は、7月第4日曜日を

「親子の日」に制定しました。

親子の日普及推進委員会は、その理念に共感し、「親子の

日」を、“親と子が共に向かい合う日、そしてその日を通

じてすべての親子の絆が強められたら素晴らしい”

と 願い、「親子の日」を定着させる為に、

様々な企画を世界に向けて

発信いたします。



◆ブルース・オズボーン プロフィール

L.A. Art Center College of Design で、コマーシャル写真を専攻。1980年の写真展「LA Fantasies」をきっかけに、日本での活動を本格的に開始。ボストン子供の博物館の企画展「TEEN TOKYO」では、東京のティーンエージャーを撮影して展示。ボストンのMCET 制作、インターネットを使つての双方向教育番組では 8 回にわたってディレクターを務め、アメリカの高校生にむけて “生の日本情報” を伝えた。

1982年から始めた「親子」写真の撮影は今年で 28 年目になり、撮影した親子の数は 2500 組を超える。

2003年より 7 月の第 4 日曜日を「親子の日」にと提案したオリジネーターで、記念日協会にも登録。「親子」をテーマにした写真展は、外国人特派員クラブ、横浜ランドマークタワー、山梨県立美術館、金沢 21 世紀美術館、愛・地球博園内愛知県児童総合センターなど、各地で数多く実施した。

＜写真集、著書＞

「親子」(デルポ出版)

「Oyako」(INKS INC. BOOKS)

「KAZOKU」(角川書店)

「反バンビ症候群」(ヒヨコ舎)

「異人都市東京」(シンコーミュージック)

「都市の遊び方」(新潮社)

「親馬鹿力」(岩崎書店) など

◆ウェブサイト
<http://www.bruceosborn.com/>

